

—映画から考える、大阪万博が描いた夢と課題—

11月30日（木） 前夜祭

- 12:30-14:30 アニメーション映画に描かれた大阪万博①※ 5-11（5号館1F）
15:00-16:30 アニメーション映画に描かれた大阪万博②※ 図書館地下視聴覚ホール

12月1日（金） 開幕特別企画

- 13:30-14:30 第Ⅰ部 齋藤元彦兵庫県知事×甲南大学生トークイベント
Global Connecting Passage（2号館3F）
『EXPO'70 前衛の記憶～アコを探して』（予告篇）
15:00-16:00 第Ⅱ部 『1日240時間』※ 図書館地下視聴覚H
16:10-18:00 ドキュメンタリーで見る日本万国博 図書館地下視聴覚H

12月4日（月）

- 12:15-15:00 『家族』※ 図書館地下視聴覚H
15:10-16:50 『少年』 図書館地下視聴覚H

12月5日（火）

- 12:50-14:30 『太陽の塔』前半※ 8-13（8号館1F）
14:40-16:10 『太陽の塔』後半※ 8-13（8号館1F）
16:30-18:00 ドキュメンタリーで見る日本万国博 図書館地下視聴覚H

12月6日（水）

- 10:40-12:10 『大阪万博2023』※ 図書館地下視聴覚H
13:00-14:30 『大阪万博2023』※ 図書館地下視聴覚H
15:00-18:00 ドキュメンタリーで見る日本万国博 図書館地下視聴覚H

12月7日（木）

- 13:00-15:10 『とむらい師たち』※ 図書館地下視聴覚H
15:30-17:10 『とむらい師たち』 図書館地下視聴覚H

12月8日（金）

- 12:20-14:30 『少年』※ 13-103（13号館1F／岡本キャンパス西校舎）
15:00-17:30 『家族』※ 13-103（13号館1F／岡本キャンパス西校舎）

※印のプログラムでは講演・解説も行われます。

「岡本キャンパス教室」の会場や講演・解説等の詳細は〈甲南映画祭公式サイト〉でご確認ください。
同じ期間中に神戸の映画館でも万博映画の上映があります。



『とむらい師たち』©KADOKAWA 1968

1970年に開催された日本万国博覧会（＝大阪万博・70年万博・エキスポ70）は、戦後日本の一大国家イベントであった。メインテーマは「人類の進歩と調和」。77カ国が参加し、総入場者数はなんと6421万人を記録した。会場には最先端の科学技術があふれ、来場者は約束された近未来都市の姿に心をおどらせた。

大阪万博が描いた、光かがやく未来。そこではどんな展示がなされ、その背後にはどんな思想があったのだろうか。人類の「進歩」が祝福される一方で、「調和」が必要とされたのは、さまざまな矛盾や軋轢が世界を覆っていたことの証左でもある。〈光〉と表裏一体である〈影〉に、万博はどのように向き合ったのだろうか。

こうした問いに大きなヒントを与えてくれるのが、映画である。そこで、甲南大学では11月末から約1週間にわたり、岡本キャンパスと神戸の地域映画館を舞台に、〈万博映画〉の上映とトークイベントを実施する。万博会場を記録したドキュメンタリー、大阪万博を題材にした巨匠たちの劇映画、万博会場でロケを行った作品、万博に背を向けた作品、近年のアニメーションやアート映画、そして当時パビリオンで実際に上映されていた映像作品……〈万博映画〉を通して、現代につながる戦後日本社会が多面的に見えてくるはずだ。

いま再び、関西で万博が開催されようとしている。経済効果ばかりが目されるが、万博には芸術の祭典としての側面がある。今度の万博で、映画はどんな姿を見せるだろうか。

上映に加え、本学教員のトークや、ゲスト講師による特別講演も！

【ゲスト講演】

12月4日 14:00～

板倉史明氏

（神戸大学教授・映画学）

12月8日 ①14:00～ ②16:50～

西田博至氏

（神戸市立三宮図書館長・映画評論家）



最新情報は公式サイトをチェック！